

課題名：片頭痛を対象とした患者・医師向けアプリの開発・事業化

代表機関：株式会社ヘッジホッグ・メドテック

分担機関：東邦大学（東邦大学医療センター大森病院）、日本頭痛学会

全研究開発期間：2024/10/29～2027/3/31予定

背景・目的：国内約1,000万人の患者、経済損失約2兆円の医療課題への挑戦

- 片頭痛は薬物治療の効果が十分ではなく、アンメットニーズが大きい疾患の一つ。
- 国内患者は約1,000万人、受診患者は300万人以上とされており、頭痛による生産性の低下といった事象から経済損失は年間2兆円超とも試算されている。
- 頭痛を専門とする医師は国内に1,000人程度しかおらず、適切な診療を受けることが容易ではない実状である。

取り組み・成果：認知行動療法等を標準治療に上乗せして実施する治療用アプリ、医師と情報共有する医療ツール開発

- 頭痛治療に有効と認められている認知行動療法を取り入れたアプリ(医療機器プログラム)として開発。一部の専門医だけが出来た治療を幅広い医師が提供可能に、患者はいつでも、どこでも加療することを実現
- 2023年の特定臨床研究により、本品が頭痛の発現日数等を有意に低減させたことを確認。2025年より製造販売承認取得のための検証的治験を開始

今後：医療機器プログラムの実用化による圧倒的な診療効率化と認知行動療法をベースとした非薬物療法の普及

- 日本頭痛学会と連携した研究開発を実施。
- 承認取得、保険収載後は、連携医療機関や学会を通じた普及を目指す。

概要イメージ

